

ポスターセッション発表一覧

(1) 自然災害

ポスター番号	1	タイトル	世界の主要保険会社における ESG および SDGs への取組動向
報告者 (所属)	金 奈穂、牛窪 賢一、横内 大祐 他 6 名 (損害保険事業総合研究所)		
報告の狙い、概要	<p>パリ協定が目指す脱炭素社会、および SDGs (持続可能な開発目標) が目指す持続可能な社会の実現に向け、欧州を中心とする世界の主要保険会社は、保険引受・投資という中核の事業活動に ESG (環境・社会・ガバナンス) の要素を考慮する「ESG 投資」「ESG 引受」に積極的に取り組んでいる。</p> <p>世界の主要保険会社の取組を調査・紹介することにより、わが国保険業界が ESG・SDGs に取り組む際の参考情報を得ることができると考えられる。</p>		
報告分類	研究報告		

ポスター番号	2	タイトル	堤防決壊に伴う経済的被害の定量評価に向けてのベトナム・レッドリバー河川流出モデル構築
報告者 (所属)	加藤 大輔 (東京海上研究所) / 立川 康人、田中 智大、中北 英一 (京都大学) / 坪木 和久、加藤 雅也 (名古屋大学)		
報告の狙い、概要	<p>水災を含む自然災害の大規模化・広域化により損害保険会社経営への影響が増大し、経営層の関心も高まっている。また、今後も大災害をもたらす豪雨の強度・頻度が高まり、河川の堤防決壊に伴う経済的被害が増加すると予想される。本研究では、河川の堤防決壊に伴う経済的被害を定量評価するため、降水量データから降雨流出過程を計算するモデルを構築することを目的とし、日本の河川と異なる特徴を有する東南アジアの河川から、ベトナム・レッドリバーを選定し、河川流出モデルを構築した。</p>		
報告分類	研究報告		

ポスター番号	3	タイトル	大規模自然災害における最新技術を活用した損害調査
報告者 (所属)	安江 浩史 (あいおいニッセイ同和損害保険)		
報告の狙い、概要	<p>あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、大規模災害 (大阪府北部地震及び、平成 30 年 7 月豪雨災害) の損害調査において、最新技術である「視界共有システム」や「ドローン」を活用した損害調査手法を導入し、迅速・適切な保険金支払いに繋げています。その内容や効果について報告します。</p>		
報告分類	研究報告		

ポスター番号	4	タイトル	気候変動を考慮した台風シミュレーション手法の開発
報告者（所属）	越前谷 渉、井上 史也、堀江 啓（MS&AD インターリスク総研） ／朝倉 陽太郎（三井住友海上火災保険）		
報告の狙い、概要	気候変動を考慮した台風シミュレーション手法の開発を目的とし、力学的ダウンスケーリングによる高解像度シミュレーションを実施した。平成3年台風19号の再現結果と海面水温上昇に対する台風強度変化の推定結果を紹介する。		
報告分類	研究紹介		

ポスター番号	5	タイトル	機械学習を用いた地震損傷度曲線の構築
報告者（所属）	中西 翔（MS&AD インターリスク総研・三井住友海上火災保険）、 藤川 大樹（三井住友海上火災保険）		
報告の狙い、概要	機械学習の手法の一つであるニューラルネットワークを用いて、過去の地震災害による被害データから地震損傷度曲線を構築した。これによって、地震動の大きさに対する被害棟数・被害形態割合の推定の精度向上が期待される。		
報告分類	研究紹介		

ポスター番号	6	タイトル	フランスにおける巨大災害に関する保険について
報告者（所属）	松田 真治（帝京大学）		
報告の狙い、概要	本報告は、共通論題「大規模自然災害とリスクファイナンス」に関連して、フランスにおける巨大災害に関する保険を扱うものである。保険法典の規定を中心に整理を行い、同国における問題点を整理したいと考えている。		
報告分類	研究報告		

（2）保険研究・教育

ポスター番号	7	タイトル	求められる損害保険リテラシーツールとは
報告者（所属）	井元 健（日本損害保険協会）		
報告の狙い、概要	地方自治体や企業では各分野の理解促進のため様々な教育教材を作成しているが、教員の研修機会の不足や授業時間の確保ができないといった理由から十分に活用されていない。諸外国の事例なども参考に活用拡大に向けた課題等を取りまとめ報告する。		
報告分類	研究紹介		

ポスター番号	8	タイトル	全国学生保険学ゼミナール (RIS) の活動紹介
報告者 (所属)	岡田 太 (日本大学)		
報告の狙い、概要	リスク・保険のインターゼミナールとして 2004 年から活動を開始した「全国学生保険学ゼミナール」(RIS)の軌跡を振り返り、その意義について保険学会の会員各位に知っていただくとともに、積極的な参加・協力を要請する。		
報告分類	告知		

ポスター番号	9	タイトル	安堵理論 (rejoicing theory) の保険論への適用
報告者 (所属)	大倉 真人 (同志社女子大学)		
報告の狙い、概要	本報告では、シンポジウム報告「ミクロ経済学の保険論への適用」の中で述べる「安堵理論」を用いた保険にかかるモデル分析を紹介することを目的とする。より詳細には、Fujii et al. (2016)におけるモデルについて紹介する。		
報告分類	研究紹介		

ポスター番号	10	タイトル	生命保険協会の事業活動の紹介
報告者 (所属)	白岩 剛 (生命保険協会)		
報告の狙い、概要	<p>1. 狙い</p> <p>生命保険協会では、国民生活の向上に寄与することを目的に各種事業を行っており、下記2の協会活動を中心に紹介させて頂きたい。</p> <p>2. 報告概要</p> <p>(1) 協会事業活動(協会長所信を想定)</p> <p>(2) 各種提言・要望活動</p> <p>(3) 大学実学講座の運営</p> <p>(4) 図書室の運営</p>		
報告分類	告知		

(3) 法律

ポスター番号	11	タイトル	地球温暖化と保険
報告者(所属)	清水 太郎(沖縄国際大学)		
報告の狙い、概要	AES Corp. v. Steadfast Ins. Co.事件は、アラスカのネイティブ・コミュニティが電力会社である AES 社に対して、同社が排出する温室効果ガスにより、居住地が居住に適さなくなったとして、訴えを提起した。AES 社は、Steadfast 社との間で商業総合責任保険契約を締結していたことから補償を求めたが、温室効果ガスの排出と温暖化は偶然の事故にあたらないと判示された。そこで、本件を参考に地球温暖化と保険について考察する。		
報告分類	研究紹介		

ポスター番号	12	タイトル	人身傷害保険における死亡保険金請求権の帰属について
報告者(所属)	上田 昌嗣(東京海上日動火災保険)		
報告の狙い、概要	これまでの学説は損害保険を前提として、相続構成として帰属を考えるべきとしてきたが、拙稿論文(損保研究80巻1号)において、扶養構成による説明を示した。その内容について、会員の先生方にご意見ご批判をいただき、さらに論議を深めたい。		
報告分類	研究報告		

ポスター番号	13	タイトル	傷害保険における2種類の偶然性 —原因事故発生の偶然性と結果発生 of 偶然性—
報告者(所属)	吉澤 卓哉(京都産業大学)		
報告の狙い、概要	<p>近時、傷害保険の約款規定の解釈をめぐり、裁判例も学説も混乱状況にあるように思われる。その原因は、第1に、急激性・偶然性・外来性の具備が求められる原因事故(保険事故ではない)の捉え方に混乱があること、第2に、偶然性には2種類のものがあるが、両者の相違を適切に認識しないまま議論がなされていることにあると思われる。</p> <p>本研究は、後者の問題を取り上げ、2種類の偶然性(原因事故発生 of 偶然性と結果発生 of 偶然性)の相違が、傷害保険約款の解釈にどのような影響を与えているかを明らかにするものである(なお、前者の問題については昨年、研究成果を公表している)。</p>		
報告分類	研究紹介		

(4) 自動運転

ポスター番号	14	タイトル	自動運転時代の保険～社会受容性向上の観点から～
報告者(所属)	石尾暢久、竹内亜理紗、本吉佳澄(損害保険ジャパン日本興亜)		
報告の狙い、概要	自動運転社会の実現により、交通事故の削減、新たな移動手段確保等、様々な課題解決が期待されています。日独の市民意識の比較から見える自動運転に対する社会受容の現状や、さらなる受容性の向上に向けた保険の役割を報告します。		
報告分類	研究報告		

ポスター番号	15	タイトル	自動運転事故をめぐる模擬裁判から考える民事訴訟の課題—保険との関係で—
報告者(所属)	長島 光一(帝京大学)		
報告の狙い、概要	自動運転の普及に向けた法整備の検討や実証実験が進んでいる。その中で、自動運転による事故のおそれも現実化しつつある。もし自動運転による事故が発生した場合には、裁判でどのような課題が生じ、保険や保険会社にどのような影響があるのだろうか。模擬裁判から得られた示唆を報告する。		
報告分類	研究報告		

(5) その他

ポスター番号	16	タイトル	アメリカの洪水保険及びテロ保険の仕組みについて
報告者(所属)	王 美(三井住友海上火災保険)		
報告の狙い、概要	アメリカでは政府と民間保険役割分担で洪水リスクを分散する仕組みができた。また、近年テロリスクが顕在化し、政府と民間保険会社でテロリスクの分散する仕組みができた。今回この二つの保険仕組みは具体的にどんな構造となり、どんな特徴があるのかについて紹介する。		
報告分類	研究紹介		

ポスター番号	17	タイトル	IFRS17における保険料収入の認識について
報告者(所属)	重原 正明(第一生命経済研究所)		
報告の狙い、概要	2017年に決まった国際会計基準IFRS17「保険契約」の適用に向けた検討では、保険料の認識を支払いが行われた時期(paid)に行う方向である。支払期日に計上する(due)基準との比較を、決算実務などの観点から試みる。		
報告分類	研究報告		

ポスター番号	18	タイトル	T P P 協定は、共済（協同組合保険）の脅威となるか？
報告者（所属）	小塚 和行（生協総合研究所）		
報告の狙い、概要	T P P 協定締結により、日本の共済制度の変更や規制強化が行われるのではないかと、という懸念が、協同組合や共済団体から出されていた。協定の規定を調べ、共済制度変更につながる可能性を分析した。また、保険と共済の「イコルフッティング」論について、国際保険監督規制の共済への適用と考え方を考察した。		
報告分類	研究報告		